

太陽

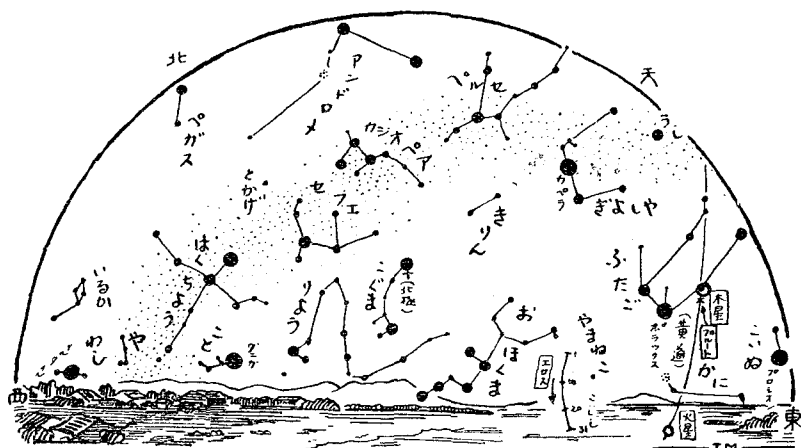
日	赤 徑	赤 緯	視直徑	星 座
1	16時27分22秒	南21度45分	32分30秒	へびつかひ
11	17時10分58秒	22度58分	32分32秒	へびつかひ
21	17時55分15秒	23度27分	32分34秒	い て
31	18時39分38秒	23度 8分	32分35秒	い て

月始めは人馬宮にあるが、23日からは麻羯宮に侵入するに至る。22日に太陽は冬至點を通過する。従つて、此の日は冬至であり、晝間最も短かくて、日出は午前7時4分 日入は午後4時52分である。太陽赤緯は此の日南緯23度27分2秒となる。

月

月の相	時 刻	視直徑	星 座
満 月	6日午前 9時39分54秒	31分46秒	う し
下 弦	13日午前 5時 6分36秒	32分20秒	し し
新 月	20日午前10時23分42秒	30分35秒	へびつかひ
上 弦	28日午後 0時58分42秒	29分44秒	う を
近地點通過	10日午前10時42分	32分27秒	か に
遠地點通過	26日午前 4時48分	29分31秒	みづがめ

1日午後4時に例の天王星と出合つて、掩蔽を起す。此の時月は既に東天に出ては居るが日中だから殆んど見られない。8日午後9時に木星に追ひ付き10日午後7時には火星に出合つて、北側2度の所を通り、12日午前3時には海王星に追ひ付き、北3度を通過、17日午後9時には金星と出合ふが、距離が6度も離れてゐる。21日午後2時に土星の南5度を通過し、22日午前3時には水星の南4度を通る。そして最後に、再び天王星に出合つて、例の如く掩蔽を起す。それは28日夜半であつて、今年中の天王星の掩蔽の内でも都合のよい時である、月光は相當に強いが 以前の時よりよい、手頃の望遠鏡で觀望されん事を望む。斯くて、今月の、否今年の、遊星歴訪は最後に賑々しく——幕、

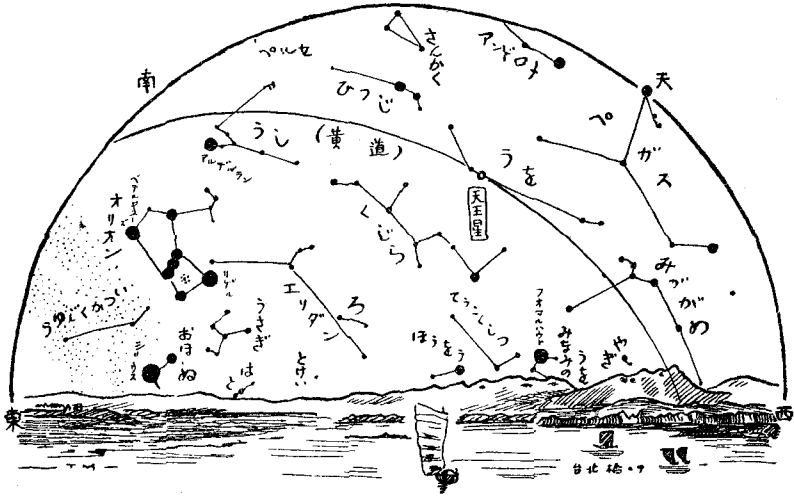


恒 星 界

北風に追ひ立てられて、行人の脚の運びも心忙しくなる年の瀬に、星の刻みのみは厳かに、遅速なき歩みを進めて行く、秋の星座が静かな歩調で西に移ると、「オリオン」の三つ星が、宵の東天に現はれて、「冬が来たよ」と囁く。

銀河は北側を東西に流れ、「はくちよう」や「わし」は西に低く、「アンドロメダ」「ペルセ」等が天頂に座を占めてる。東の「オリオン」に續いては、「おほいぬ」、「こいぬ」が登つて来る。南では、「なんぎよ」のホマルホウトが地平線に近く傾いてる。今、子午線を通過してゐる星座は、「ろ」、「くぢら」、「ひつじ」、「さんかく」、「アンドロメ」、「ペルセ」、「カシオペア」、「こぐま」等

天の河の流域には、シリウス、リゲル、プロシオン、ベテルギウス、ボルクス、カペラ、デネブ等の一等星が、青赤黄と色とりどりに瞬いて、其の間合々には、華やかな七美女の集まりと言はれるブレアデスや、さてはヒアデス、「ペルセ」二重星團等が、美を競ふて輝き、アルゴールの様な愛嬌者も混つて、此頃の夕べの空は、なかなか賑やかである。殊に小遊星(エロス)の接近をひかへて、天界は實に忙がしい。



遊 星 界

水 星 宵の星であつて、 Γ へびつかひ Γ の東部にあり、順行して15日朝には土星と並び(距離2度半)、20日に東方最大離角20度となる。此の時は Γ いで Γ 座の中央より稍東で、視直径6秒7(角)。光度零等。更らに進んで27日に停留となり、以後逆行に移る。

金 星 暁の明星。月始めは太陽に近いが、ぐんぐん離れて、12日の停留以後は順行に移る。月末になる程観望に適し、殊に28日には最大光輝負4.4等となる。其の頃の視直径は42秒。四日月程の型に見える。

火 星 午後9時頃東に登る。位置は Γ かに Γ の東端。19日停留後は逆行に移る。最早や観望の時期。光度零等、視直径は月初め10秒、月末13秒。

小遊星 エロスが近寄る。明年の一月末に最も地球に接近するが今から注意せられるとよい。位置は Γ ねこ Γ の東部から Γ こじし Γ の東南部へ移動する。

木 星 宵に東天に登る。観望には都合がよい。 Γ ふたご Γ の中央を徐々に逆行してゐる。視直径44秒、光度負2等餘り。

土 星 宵の星であるが太陽に近いので観望には適しない。

天王星 21日停留となり、以後順行に移る。28日夜半には月に掩蔽される。相當の望遠鏡があれば見られる。光度6等、視直径3秒半。

海王星 9日に停留となり以後逆行に移る。レグルスの東、光度8等。

冥王星 いよいよ良い見頃。しかし最大望遠鏡を要す。光度15等。